

令和2年度 山梨県立甲府工業高等学校 学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	新しい時代を主体的・創造的に生きる逞しくもしなやかな心を持ち、豊かな人間性・社会性をそなえ、地域の希望となり未来となり、山梨や日本を支え、世界に羽ばたくエンジニアを育成する。
-----------	---

本年度の重点目標	1 社会に通用する人間力を持った人材を育成する。	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	2 確かな学力の向上を図り、生徒の希望進路を実現する。	B 概ね達成できた。(6割以上)
	3 部活動を積極的に推進し、心身の健全育成に努める。	C 不十分である。(4割以上)
	4 社会のニーズに対応した、教育活動を推進する。	D 達成できなかった。(4割未満)

山梨県立甲府工業高等学校校長 永田 典弘

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価			
本年度の重点目標		年度末評価(令和3年1月21日現在)	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	社会に通用する人間力を持った人材を育成する。	無遅刻・無欠席の基本的生活習慣の徹底を図る。	毎日の始業前遅刻指導と遅刻者指導の実施と、該当者への事後指導の徹底
		規範意識や社会性の高橋を図る。	免許取得希望者への指導と、交通事故・違反生徒への指導の徹底 慣性モデルの確立
		地域社会や企業との連携を図る。	企業現場実習及びボランティア活動の実施
2	確かな学力の向上を図り、生徒の希望進路を実現する。	主体的・対話的で深い学びの授業(アクティブラーニング)を実施する。	相互授業参観及び研究授業の実施 授業改善と生徒の基礎基本の充実
		就職希望生徒の第1希望内定率100%を達成する。	面接及び作文指導の充実
		進学希望生徒の第1希望合格率100%を達成する。	面接及び小論文指導の充実
3	部活動を積極的に推進し、心身の健全育成に努める。	部・委員会活動をより活発に展開し、豊かな人間性を育成する。	年間指導目標・年間指導計画の作成 生徒へのきめ細やかな指導の確立
		健康、安全や食に関する知識を高め、自己管理能力を養う。	各種講演会の実施
		SPH・専攻科専業を推進する。	SPH専業と、開設された専攻科の高度な専門教育の推進
4	社会のニーズに対応した、教育活動を推進する。	適正な国際理解教育の実施。	韓国姉妹校清州工業高校との交流
		各学科ともメインの県内コンテンツで優勝を達成する。	早期放課後課外、長期休業中の指導計画と実施
		信頼される学校づくりを推進する。	「学校評価アンケート」「オープンスクール」「授業公開日」の実施 PR活動の強化

学校関係者評価	
実施日 (令和3年2月3日)	
評価	意見・要望等
4	例年通り、非常に出席率が高いことは学校の魅力が高いことと受け止めます。今年はコロナ禍でインターンシップ等の中止など、企業で働くことの動機づけへの影響も危惧されましたが、先生方の努力・工夫で企業・現場見学が実現できたことは今後の生徒への好影響と期待できます。 交通事故の減少対策について要望したところ、学校独自に過去に発生した事故の『時間・場所・原因』等を分析していただきました。それを基に、登校指導の場所の追加や適切な時期でのプロジェクターを活用した生徒への指導などを実施し、昨年度に比べ事故を激減させたことは素晴らしいと思います。 コロナ禍の1年間、安全対策や連絡の徹底、学校行事や授業の確保、部活動の在り方等、日々の対応に追われたこととします。多方面に渡るご配慮ご苦労様でした。 コロナ禍で学校の存在の大切さを生徒も気付いたのではないのでしょうか。普段は気付かないことからの学びもあるので、是非大切にしていただければと思います。
	コロナ禍での困難な状況でしたが、教職員の工夫・努力で遠隔授業や過去にない授業展開が生まれたことは素晴らしい。今後の授業の幅を広げることにし、更なる工夫・発想で生徒の自主性を尊重した授業を進めていただきたい。また、コロナで業績の下がった企業も多く、即戦力の人材育成はこれまで以上に必要だと思います。 就職・進学共に第1希望合格を目標のキャリア教育・専門教育を実施し大きな成果を上げていると思う。 本年度就職内定率100%は達成できそうですが、来年度は更に厳しくなると予想されます。資格取得に更に力を入れ、専門性を生かした進路指導を望みます。 国立進学希望生徒の指導が難しくなっていることはよく分かりましたが、先生方が課外・補習・個別指導を行っている中、国立進学者ゼロは残念です。中学生の8割が大学への進学を希望する中、教育課程の見直しも含め根本的な対策が必要かもしれません。 ルーブリックを取り入れた評価が行えるということは、これまでの履修主義から修得主義への変化だと思います。教師にとっても大変な取り組みだとは思いますが、引き続き導入の拡大を期待します。 私の経験でもありますが、進路決定は生徒との話し合いを大切にしていきたいと思います。
4	部活動が制限された今年でしたが、その中で人間教育中心とした指導を行い、健康・安全にも配慮した活動ができたことは大きな成果と感じます。また、『生徒の意』を汲んだ活動を行ったことは生徒の成長に大きく寄与したと思います。 各部活動はより頑張る、全国大会出場や、全国出場チームに惜敗するなど全てのレベルが上がっていると感じます。今後は全国制覇の目標や甲子園出場を達成できるような指導育成を望みます。 全国募集枠が始まりましたが来年度はゼロとのこと、同意会・PTAの協力も得ながら来年は制度を活用していただきたい。 科学的な練習メニューや戦略を考えることで、スポーツをテーマに対話的で深い学びを構築することは甲府工業のオリジナルの活動にもつながると思います。
	SPH事業もコロナの影響で地域連携や企業との交流が制限を受け、大変であったと思います。その中でも工夫を凝らしながら着々と研究を進め、オンラインではあります成果発表会ができたことに敬意を表します。また、年度前半に機会が失われた資格取得を後半で取り組み結果を出したり、開催されるコンテストに積極的に参加するなど、生徒にとっては今後の自信につながったと確信します。 今年はコロナ禍という初めての経験で大変だったと思いますが、今後しばらくはこの状況が続くと思います。行事や交流等は更なる工夫が必要となりますが、生徒との話し合いを大切に、各活動を推進していただきたい。 SPH事業もあと1年。大変だとは思いますが、その後を見つめた取り組みを行ってください。20年以上続いている青洲工業高校との交流はネット利用も必要かと思いますが、様々な行事もこれまでに無い工夫をしていって下さい。 コロナ禍で社会でもICTを使う場が増えています。大学でも授業や会議はオンラインが主流です。オンラインを導入することで労力が減ったり、遠くの人とつながることができます。コロナで大変なこと多いですが、逆にICT利用のチャンスと考え、オンラインを利用する挑戦を行ってほしいと思います。 中学生が魅力を感じる学校づくりを行って頂きたい。